

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902611		
法人名	医療法人社団 圭泉会		
事業所名	グループホームやすらぎⅡ(ユニットこもれびⅡ)		
所在地	旭川市東旭川町下兵村254番地の3		
自己評価作成日	令和4年11月20日	評価結果市町村受理日	令和5年2月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0172902611-00&ServiceCd=320
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・毎日朝の申し送り時に、理念を復唱している。又、利用者本意のケアを行える様3か月ごとにユニット別で個々に小目標を掲げて援助につなげています。・各担当者が家族に向けたお手紙を毎月記載し、よりよい関係性を築けられるように努めています。・町内会行事の清掃や資源回収に参加し地域の方と交流を図っています。・利用者が必要な医療を受けられる様に、心身の状態を観察し、24時間体制で必要時に看護師に連絡・相談・報告・指示を受けられるように医療連携でき、安心した生活が送られるように対応しています。・法人との感染対策を参考にして、施設内で感染委員会中心に感染対策を実施しています。・法人で開催している高齢者マネジメント会議に参加し、各セクションとの情報共有を行い、入所状況など把握に努めています。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和4年12月9日

事業所は、市内東旭川地区に位置し、動物園通りを中心にコンビニ、JR駅等が徒歩圏という至便な環境下に立地している。母体である医療法人社団は、多様な医療系、福祉系サービスを展開しており、定例で管理者会議が行われ、事例検討や制度改革、厚労省通知の情報共有等、グループ機能を活かした連携を図っている。運営推進会議の開催状況は、コロナ禍により職員のみでの開催、書面での報告となっているが、運営状況や日常の様子、ヒヤリハット・事故等の詳細を説明して、事業の透明化に努めている。利用者家族からは、事業所のコロナ感染防止対策の徹底や、外出が難しい現状においての心身の機能維持に関する工夫、全職員が全利用者を把握する事を基本とした配慮ある支援が好評を得ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します									
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と		
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族の2/3くらいと		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと		
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない		
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように		
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度		
			3. たまにある				3. たまに		
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている		
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない		
			4. ほとんどいない				4. 全くいない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. 職員の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が		
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が		
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が						
			2. 利用者の2/3くらいが						
			3. 利用者の1/3くらいが						
			4. ほとんどいない						

自己評価及び外部評価結果(こもれば側)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、理念を読み上げて共有している。実践に関しては3か月に一度ユニットで目標を立てて、実践につなげている。	基本理念をを事業所内に掲示し、職員の志として利用者や家族、関係者に示している。また毎朝の申し送り時に唱和し、実践に活かせるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の廃品回収、ゴミ拾いに参加しているが、コロナ禍で断られることもある。地域交流は予定は立てていたが、コロナ感染者数が増えたため、今年も出来ていない。	コロナ禍で地域とは相互に自粛傾向にあるが、通例では町内会等の行事参加、事業所からの発信に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族には来所時、電話、手紙にて状況や支援している内容を伝えている。その他、地域の方には運営推進会議やグループホーム新聞にて伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、最近では書面開催し、施設の状況等を報告している。書面のため、あまり意見の交流は活発ではないが必ず返信用封筒を入れ意見を頂いている。	現在は書面開催としている。コロナ動向対応、活動内容課題検討、身体拘束適正化委員会を開催し、議事録・資料を家族等に送付して、意見と理解を求めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に管理者が電話で市や地域包括担当者と連絡を取っている。それにより協力関係が築けている。	行政の窓口からは、定例の運営状況報告の他、メール・電話での相談や実地指導の場で、随時助言・アドバイスを受けており、関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会主催の勉強会や介護体験を行い身体拘束の理解を深めている。また、玄関に鈴をつけたりテラスにはセンサーを用いて施錠をせずに拘束しないように対策している。	法人として身体拘束廃止委員会を設置し、定例で開催、内容について職員に周知している。全利用者の現状の確認と不適切なケアについて、虐待も含めた具体的な事例を職員間で協議し、改善している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切なケアの事例検討を行ったり、振り返りシートを用い普段のケアの振り返りを行い、最適な支援方法を話し合っている。地域包括センターが開催する、施設内虐待防止に関する出前講座にも参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、成年後見制度を利用されている方がおり、その方の介護記録等から学ぶ機会があった。現在は制度利用されている方はこもれば側は居ないが、対象者がいれば病院のスタッフからの介入もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主に管理者・計画作成担当で行っている。利用者さんの情報はDCからも取り入れている。内容は記録や申し送りノートで把握している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時や意見箱・電話・サービス担当者会議にて要望を聞いている。運営推進会議の際にも手紙で意見を確かしている。	面会はガラス越しや玄関、敷地内等、多様な方法について職員間で検討し、感染防止に留意・工夫しながら、弾力的に再開し、意見聴取の機会を持っている。個別の生活状況・健康状態について、詳細に伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談や日常からも職員の思いを聞いて、話し合い対応している。	主に職員会議の場で、職員との意見交換や提案を受け、運営に活かしている。また、管理者が随時相談に応じる等、話しやすく、働きやすい環境作りにも配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休み希望・年休・勤務変更の対応・勤務希望調査・処遇改善手当がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍にて研修はほとんどないが、スタッフが講師となり、毎月勉強会の開催をしている。施設長は管理者研修へ参加。また職員は法人外の、リモート虐待防止研修へ参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍にて法人の委員会の交流も難しくなっているが、管理者研修に参加し、意見の交換や各施設の情報交換等、行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談し情報を記録に残している。入居後にも家族や入居者さんから入院前の生活や趣味などお聞きし、取り入れ対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に管理者・計画作成者が話を聞いて対応しているが、スタッフも見学・荷物搬入時会話の中で関係作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学や事前に面談し情報を得て、必要な支援が何か確認している。入所前の生活を把握し、本人がどのサービスが利用できるか家族を含め検討し取り入れるよう関わっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフと共に家事・掃除を行ったり出来る出来ないに関わらず出来るだけ声掛けをしている。スタッフがさりげなく苦手な所をフォローする事も出来ている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族来所時や手紙・電話の時には近況を報告し、意見や要望があれば伺い、本人とより良い関係性を気づけるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	直接面会は出来ていないが希望があればガラス越しに家族の顔を見て話すことが出来ている。ドライブレクでは元の家の前を通って見て頂く事も出来た。	コロナ禍において、現在は時間を制限しての面会としたり、電話連絡の頻度を上げることで、関係が途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係に配慮し必要な時はスタッフ介入しているが、出来るだけ利用者同士の時間を大切にしたいと考えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移動先が同法人の為、時折面会に行ったり、TELで状況を確認させて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中から得た情報・言葉を記録に書き管理者・計担・スタッフ同士で共有している。ユニットノートを使いみんなが情報共有できるようにしている。	毎日の生活を支えながら、嫌な事、好きな事等を把握し、本人の意向に沿った暮らしを支援している。困難な場合でも、仕草や目線、表現を頼りに本人本位になるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から話を聞き過去の暮らしなどの情報を記録し共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方や、どこまで出来るか様子を見て記録し、スタッフ間で共有している。モニタリング時にしっかり時間をとり意見交換も出来ている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングやショートカンファレンスにて話し合いをしている。その後新しい課題があれば再度スタッフや家族の意見を聞き、話し合い実践している。	介護計画は、日々のモニタリング成果、職員による気づきに合わせ、家族の意見、要望を聞き取り、個々の介護計画変更・新計画の最適案を職員間で協議し、作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	いつもと変わった様子があれば詳細を記録し行っている。後にモニタリング等で話し合い介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員が少なく、全てに対応は出来ていないが、入浴日以外の入浴を行ったり、できるだけ食べたいものなどを聞き提供させて頂いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の自動販売機迄散歩に行きジュースを買ったり、となりの病院の歩きやすい舗装路を散歩して楽しまれている。外出支援では、公園等にも行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医があればそこへ受診に行っている。その他主治医や家族本人などと相談し受診先や受診日を決めている。また、家族が受診対応してくれている人もいる。医師専用の用紙を使用し、情報を伝えており何かあれば直接TELが来たり、往診して頂く事もある。	かかりつけ医は利用者と家族の意向で決定している。母体医療機関との連携体制があり、配置の看護師を中心に、体調面・支援方法について職員間で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々看護師が申し送りを聞き、変わった様子があれば対応。看護師とは24時間連絡が取れるようになっている。受診を忘れないように日勤予定表へ記載し活用している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人が病院であり、高齢者マネジメント会議等で連携が取れている。管理者が中心になって情報交換している。また職員も入院中必要な物があれば届けておりその際に情報を聞いたりしている。病院には気軽に相談することもでき関係性は良好である。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時・急変時・終末期についての同意書に同意を頂いている。管理者中心となり、家族・（本人）と意見交換をして都度意向を取りいれている。医師や多職種と連携し、施設で出来る支援を行っている。	契約時に指針を文書で説明し、同意書を得ている。また状況に応じて、母体医療機関を含めて話し合い、本人や家族の意向に沿って介護できるように、職員間で情報共有に努め、取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフによる勉強会を行ったり、マニュアルがあり対応できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	発電機・常備食・ストーブが準備しており、定期的に避難訓練をしている。避難訓練時には、マニュアルを使用し、練習。避難時用に最低限の着替えと名前を準備した。	火災、自然災害を想定した防火訓練を定例で実施している。地域町内会、法人の他サービス事業所との協力体制、役割も含め、話し合いを行い、備蓄も確認しながら、不意の災害に備えている。	自然災害に関する避難訓練内容のさらなる充実と家族、関係者への避難場所の周知を検討している。計画の進展に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	振り返りシートを使い、普段の関り方を見直し、利用者に合った声掛けや言葉遣いや態度に気を付けている。	職員は利用者一人ひとりの想いや意向を聞き取り、応えるよう努めて、個々の誇りや個性を損なうことのないよう会議の場で共有し、支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話で入居者の思いを汲み取り、自身で決められる様に職員一同働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせて、無理強いせずデイサービスを休んだり、入浴を別な日にしている。朝も長く寝ていたい日は、見守り利用者さんのペースに合わせた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節ごとに衣替えをし本人に気温に合った服を選びやすくしたり、外出前に髪の手入れや服の汚れなどを気にかけている。服が変わった際には気づき似合っている事を伝えている。家族からの意見も取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日常的に職員と共に、食事準備、片付けをしている。食事レクややすらぎ農園で採れた物は、出来を喜び共に調理もしている。毎月のレクで好みの昼食を提供している。	利用者の希望、季節感を大切にした食事を心掛けています。好きなお手伝いをお願いし、楽しんで調理に参加出来るよう、職員が工夫している。コロナ禍においては、行事食で外食気分を味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の考えたメニューである。食事形態やお米の量を個々に合わせている。アレルギーの方には、冷凍食品で代用し対応している。食事量の足りない方は、ラコールで栄養補給を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合わせた口腔ケアをしている。磨き残しなどある方は、職員が都度声掛けをしている。歯科往診も定期的に行っており口腔ケアの相談等も出来ている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁量をチェックし、その人に合ったパッドや定時でのトイレ誘導を個々に合わせ支援している。介護24時間シートを使用し、個々の排尿パターンを把握し声掛けや誘導支援をしている。	排泄はトイレで行うことを基本とし、チェック表を用いながら、誘導も時間と仕草を読み取って行っている。使用するパッド類も、定期的に見直している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹部マッサージや下剤調整をしている。看護師による腹部観察をしている。毎朝のラジオ体操を日課にしている。排便が出ていない場合には、水分をいつもより多く促すこともある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、外出等で施行出来ない時は別日に変更している。	個々の希望、状態に合った入浴を心掛けている。無理強いすることなく、時間や担当者に変化をつけ、好みの入浴剤を使用する等、楽しい入浴となるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や状況に合わせて休んでもらっている。心地よく休んで頂く為に温度の調整も行っている。夜間気持ちよく眠れるように、日中は出来るだけ、離床を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報をファイルし、いつでも確認出来るようにしている。服薬変更時、ノートで情報共有し、申し送りでも必ず送っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔行っていた編み物・畑作業などをされたり、本人に聞いて好みのお菓子を提供している。やりたいことがわからない方は色々な声掛けをして、やりたいことを探っている。畑は手ごたえがあったので継続し今後も行いたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者さんからの希望はあまりないが、感染対策をし、少人数でのドライブレクや散歩に行くことができた。今年の目標であった外出支援を常に意識して、少しでも空いた時間があれば、公園に出かけたり、アイスを食べに行ったりすることが出来た。	全体での外出行事は自粛しているが、個別に声掛けし、周辺の散策をしている。日常生活に運動を取り入れたり、公園、敷地内で外気に触れる等、職員は利用者の気分転換や心身の機能維持に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理はホームで行っている。自動販売機使用時には本人にお金を渡し、使って頂ける様に働きかけている。今後は感染対策をして、店頭での買い物の支援もしていきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望時、家族に電話する方もいたが、希望はなくなりつつある。希望時はいつでも取り次いでいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや廊下は季節にあった飾り付けをし、夏はテラスにプランターで花も飾っている。温度や明るさはミーティングで話し合い適切になるようにしている。展示物の極端な変更がない場所もあり、今後は変更していきたい。野菜作りが入居者さんにとり良い時間と感じている。	リビングは採光も良く、温度や湿度が適切に管理されており、利用者と職員の手による四季を感じる飾り付けや、行事写真で飾られている。共同生活の場としての感染防止対策に取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方を隣の食席にし会話を楽しんで頂いている。ホールソファや食席、廊下ソファにて思い思いの場所で過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が安全にくつろげるよう、家具の配置やベッドの高さ調整をし、くつろげる椅子も置いている。また、本人が塗った塗絵を飾り付けている。入居前からくつろぎ座られて居いた椅子なども家族と相談し、持参して頂いている。	居室には、自宅から使い慣れた家具や生活雑貨が持ち込まれている。状態の変化が見られた場合は、本人や家族と相談して整理・模様替えを行い、安心して過ごせる環境作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に日課表を貼り、それを見て行動が出来るようにしていたり、自分で洗濯物を出せるようにカゴの用意や自室に物干しも準備している。また、その方の歩行状況に合わせて、トイレに近い部屋になるようにも調整している。		